
第15回 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成25年9月24日(火) 14:00～ 15:00 プリムローズ有朋 コスモス

出席者 : 三浦(部会長)、青柳、上松、佐々木、高橋、長根、星野、吉田、川津(代理 町田)

関係団体職員: 渡邊(さいたま市社会福祉協議会)、船戸、菅原(さいたま市社会福祉事業団)

吉田(さいたま市都市局都市計画部都市交通課)

事務局 : 大川原、星野、田島、田井(福祉総務課)

※敬称略

- 【次第】 1 開会
2 議事
(1)平成25年度モデル地区推進事業について
3 その他
4 閉会

【内容】

- 1 開会
三浦部会長あいさつ(省略)
2 議事
(1)平成25年度モデル地区推進事業について

事務局◇◇◇資料1、資料2、資料3の説明(省略)

部会長◇◇◇ありがとうございました。基本的に前年度の大谷場中学校で行った事業のプログラムを下敷きに考えてもらっているようです。前年度の経験に基づく反省、改善点の提案もあってよいと思いますので、事務局の説明に関してご意見、ご質問等がありますでしょうか。

吉田委員◇◇◇天候によって、日程の変更はあるのでしょうか。天候とは関係なく、この日程で実施する予定でしょうか。

事務局◇◇◇岩槻中の先生とも相談しているのですが、強い雨の場合、まち歩きは難しいと思います。岩槻中学校の体育館は非常に広いので、そちらを使うことも視野に入れておりますが、そのへんにつきましても中学校側と検討中でございます。

部会長◇◇◇具体的にはどのような検討をしているのでしょうか。

事務局◇◇◇まだ具体的な検討までには至っていないのですが、10月22日の体験学習では出来ないようなものが体育館で出来ないかということも含めて考えていきたいと思っております。

部会長◇◇◇それは、社会福祉事業団さんや社会福祉協議会さんにも相談なさっているのですか。

事務局◇◇◇まだ相談できていませんので、これから内容についてご相談させていただきたいと考えております。

部会長◇◇◇昨年もやはり雨が降ってしまして、やれるかやれないか間際まで迷って、大谷場中学校は比較的新しい施設で、学校全体がバリアフリー化されている施設でしたので、施設チェックのような感じで校内を歩いてみたらという議論もしていた経緯もあるので、体育館に限らず、学校施設の在りようも少し把握したうえで、雨天対応のプログラムの方も具体的に決めておいた方がよいと思いますので、よろしく願いいたします。

佐々木委員◇スタッフのグループ分けはどのようにされるのですか。

事務局◇◇◇必要なスタッフの人数などもこれから決めていく段階でございますので、まだ決まっておりません。

青柳委員◇◇雨天の時に一つ考慮していただきたいのが、トイレですね。障害者の方々がどうやってトイレを利用するのか。そういうことを、ぜひ企画に入れておいてもらえればと。と言いますのは以前にも申し上げたと思うのですが、和式トイレはちょっとした障害ないしは妊娠されている方を含めて、まさに大変な作業になってくるものですから。それから公的なトイレの場合には必ずといっていいほど汚れが多いものです。そういったものを中学生に実際に見てもらい、こういう時に汚してはいけないんだなということが分かればいいのではないかと思いますので、ぜひ、トイレについても一つの企画に入れていただきたいと思います。

部会長◇◇◇ご意見ということでよろしいですね。

高橋委員◇◇当日までには詳しい案内が私たちの元にくると思いますが、駅から距離があるので、学校への交通手段も提示していただきたいと思います。

部会長◇◇◇よろしくお願いします。

少し私からも発言させていただきます。私も8月6日に事務局の方と一緒に学校へ行って担当の先生と話しをしました。その時にはまだカリキュラムもしっかり考えられていない状態でしたが、本日の資料を拝見しても、学校側の学習の目標といえますか、どういうねらいをもって子供たちが、今、事前学習に取り組んでいるかなど、そのへんの学校の意図が伝わらないと分からないなというところがあります。特に、コースの候補が8コースあって、そこから5コースに絞るわけですよね。その時にどういう視点でコースを絞っていくのか、どういう問題意識を持って子供たちが歩こうとしているのかとか、このへんの学習目標といえますか、学校側の意図というのは事務局でどのように把握されているのでしょうか。

事務局◇◇◇学校側の意図につきましてはまだ把握できておりません。担当の先生ともしっかりと協議をしながら把握していきたいと思います。

川津(町田)委員

聴覚障害者の講師は、5人必要でしょうか。また、先ほどから話しがあるように雨天の時はどうなるのでしょうか。例えば雨天時にまち歩きをする場合、傘をさすと聴覚障害者は手話を使うということがなかなかできません。合羽を用意していただいたほうがいいのかとも思いますが、どうでしょうか。

事務局◇◇◇講師の方々的人数も、これからご依頼させていただくことを考えております。川津会長さんにも日程はお伝えしていたのですが、具体的な相談はこれからということでしたので、どのように進めていくかも含めましてご相談させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

部会長◇◇◇11月5日は5コース全てのコースに、それぞれの視点に対応した様々な方が参加して歩くということが前提だとすれば、できるだけ5人以上参加していただいて、各グループに付いていただくというお話しの方が良いのではないのでしょうか。

事務局◇◇◇部会長のおっしゃる通り、現時点では5人以上の講師の方々が必要かと考えております。よろしくお願いいたします。

川津(町田)委員

分かりました。

部会長◇◇◇もし、このパターンで動けるとすると、今までの同じ特性ごとにまちを歩くといったものとはまた違った視点で気付きも得られるのではないかと思います。新しいチャレンジだと思いますので、よろしくをお願いします。

部会長◇◇◇以前にも話しがりましたが、岩槻中学校の特別支援学級のプログラムへの参加については要検討ということでした。現状どのような考えでいらっしゃるでしょうか。

事務局◇◇◇担当の先生とも相談をしているのですけれども、先生からの明確な回答はいただけていない状況です。再度、確認をとりたいと思います。

部会長◇◇◇星野委員からは、何かご意見、ご要望はございますか。

星野委員◇◇岩槻中学校には特別支援学級があるとお聞きしており、特別支援学級がない他の学校の生徒さんよりは、日々接する機会が多いと思うので、そのへんは少し分かりやすく伝えられるかなと思っておりませんが、今までと同じ教え方でいいのかなということは会の方でも検討中といえますか、改善していった方がいいのかなという話しも、会議の中で出ております。まだ具体的にははっきりしていないのですが、多くの方に分かっていたらいいような伝え方を心がけたいなと思います。

長根委員◇◇視覚障害者のグループでも、実は岩槻中学校に点字を教えに行っているグループがあり、岩槻中学校には1年生から3年生あわせて20数名の、点字を教わっている生徒がいるそうです。視覚障害者の立場からすると、生徒の中に点字が分かる生徒がいるということも非常にいいことだと思っています。

部会長◇◇◇10月22日の体験学習の内容をどうするかということは、ご協力いただく諸団体の皆様にも考えていただくようなところがあると思いますので、そのところと11月5日のまち歩きとは別の検討もしなければいけない要素もあると思いますので、その2つを連続のものとして考えていただければと思います。よろしくをお願いします。

吉田委員◇◇資料を見ますと、講師の人たちの集合時間などの記載はあるのですが、私たちはどういう位置付けなのでしょう。スタッフなのでしょう。そのようなことも含めて後ほど郵送されてくるということなのでしょう。細かくても申し訳ないのですが、当日はどのようにしたらよいか教えていただければと思います。

事務局◇◇◇講師とは、当日お話しをしていただく諸団体の方々になっております。委員の皆様につきましては、後日、詳しい資料と一緒に集合時間などもご案内させていただきます。当日につきましては、いずれかのグループに付いていただき、実際に見ていただくかたちになります。資料の中の打合せとありますのは、基本的には当日の流れの再確認を事務局からさせていただくかたちになります。

部会長◇◇◇講師というのは、生徒さんからの質問に対応していただく諸団体の当事者の方々を事務局ではイメージしていると思います。資料に委員の動きが分かるようにする必要もありますね。スタッフというのは市役所職員、社協さん、事業団さんの職員の方々だと思います。それと、振り返ってみると、例年よくわからなかったと思うのが、どういった方々に声が掛かっていて、当日いろいろな方々がいるのですが、PTAの方なのか地域の方なのかよく分からないまま時間が過ぎてしまうので、どのような方々がどのような役割で来ているのかが分かるように、資料を整理していただくと良いと思います。それから、集合時間と打ち合わせが分かりにくいとありましたけれども、せつかく多くの方々が集まりますので、軽く自己紹介くらいできるとか、相互に知り合うような流れを作っていただくようお願いしたいと思います。

佐々木委員◇三浦さんがおっしゃったように、自己紹介がないとご挨拶もできないので、よろしくお願いします。

部会長◇◇◇10月22日も委員の皆さんや地域の大人たちにも声が掛かっている感じになるのですか。まち歩きは大勢の参加と理解しているのですけれども、10月22日は学校内で生徒を中心とした学びの時間が構成されると思うので、大勢で行っていいものなのかどうかということも整理してご説明ください。

事務局◇◇◇10月22日の方も当事者の方々をはじめ、学校の方でも近隣の自治会にお声掛けをさせていただいている状況でございます。人数の確認もこれからなのですが、10月22日の方も出来るだけ多くの方々に来ていただけるかたちでは考えております。

高橋委員◇◇決して批判めいたことは申し上げるつもりはないのですけれども、今回やるときにお祭的なことでやられないように、ぜひお願いしたいと思います。皆さんが忙しい中時間を割いて行くわけですから、中身の濃いものにしていただきたいと思います。

部会長◇◇◇中身の議論とも通じるかと思いますが、アンケートはぜひしっかり取っていただいて、地域の大人の方、PTAの方、自治会の方などせっかく来てくださるので、この取り組みに対しての率直な意見を集めていただいて、成果の確認に活かすようなかたちでアンケートをお願いします。

吉田委員◇◇昨年のアンケートを見ていただいて、反省点というのがかなり挙がっていたと思いますので、それをぜひ参考にさせていただきたいと思います。去年は初めての参加だったのですが、耳に聞こえてきたのは、大谷場中学校に行く際の地図が見つらなかったというのと、目の不自由な方、耳の不自由な方を介助するボランティアの方に、地図が渡っていたのかなというのが疑問でした。かなり遠回りをして来ていらっような話を聞きました。最短のルートを示すなど、ボランティアの方も含めて分かりやすい配慮をお願いしたいと思います。

部会長◇◇◇大事な指摘ですね。学校の方は分かっているのですが、普段その地域に馴染んでいない方が学校へ行こうとすると、学校というのは意外と案内も少なくて分かりにくいものですから。また、門の位置ですとか、どこから入るのが分からなくて学校の敷地周囲をぐるぐる回ってしまうということもありますので、そのへんを分かりやすくしていただくといいかなと思います。

長根委員◇◇今の件なのですが、私たちの場合はボランティアもその都度頼む人が違います。その時に空いている人を頼まなくてはなりません。ボランティアの人は数日前にならないと分からないということもありますので、視覚障害者の場合は当事者の方へ地図をいただければ、ボランティアの方に渡せるので大丈夫です。

青柳委員◇◇資料1のグループ分けの道具等で、高齢者体験グッズというのがありますけれども、この高齢者の概念とは年齢が高齢なのか、そのへんをある程度定義づけをしていただいた方がよろしいのではないのでしょうか。

事務局◇◇◇たしかに高齢者といいますが、高齢であっても元気な方もいらっやれば、それほど高齢ではなくても耳が遠い方がいらっやるなど個人差がございます。明確な定義はできないのですが、こちらのイメージとしましては、視力が悪くなった場合や聴力が悪くなった場合など、グッズを使って体験できるイメージを考えております。

青柳委員◇◇中学生が学習としてやるわけですから、曖昧ではなく、具体的に今言われたようなことを何かに書いて生徒に教えるとかというふうにされた方が、より学習的になるのではないかと思います。

部会長◇◇◇今回の事業に関わらず、最近のモデル地区事業は、事前に子どもたちが自分で調べる調べ学習というのが入りまして、その中で子どもたちなりに年齢を重ねていくということはどういうことかというのを整理して臨むとは思いますが、教える側に立つには、そのへんの頭の整理というのはしておく必要はあるのかなと思います。よろしくお願いします。

佐々木委員◇先ほどからボランティアの話が出ているのですけれども、講師の方々とは打ち合わせをされるみたいですが、ボランティアにもリーダーの方がいらっしゃるでしょうから、打ち合わせの時にリーダーだけでも一緒に集まって、その方から周りのボランティアの方々へお伝えしていけば、スムーズに行くのではないかと思います。

部会長◇◇◇細かな事も含めて確認しておきたいということがあれば遠慮なくどうぞ。

星野委員◇◇知的障害の分野になってしまうのですが、視覚障害者のグループにはアイマスクなど道具を使うのですが、知的障害者の場合には道具がないわけですが、知的障害といっても10人いれば10人の特徴が違うわけですからすごく難しいのですけれども、まち歩きの体験というのは、やはり障害者を通してというのが必要な事だと思うのですが、育成会の方からは前回会議で話したところ、当事者本人と一緒に歩かせるということは不可能だったのですね。親御さんの中には、自分のお子さんを見せ物にたくないという意見もあったりして、とてもそこが難しく、前回、大谷場中では事業団の方から当事者の方々を連れて参加させていただき、一緒に歩いたのですが、非常に障害が軽いお子さんだったので、ただ、会話もなくスタスタと歩いて、その後ろを生徒と一緒に歩いていて、そのグループに保護者が入っていたのですが、それってどうなのかなというふうに思いました。以前、小学校で開催したときは当事者がいなかったもので、親が例えば木が出ていると危ないですとか、信号がある時はこうなんだよとか一つ一つ教えながら歩いたのですけれども、そういった時間は必要ですよ。ちょっと、会の方から当事者が出せないのも、もし当事者が必要だということであれば他にお願いしなくてはならないということと、あとは、知的障害者とのまち歩きが必要なのか。その時間にビデオ等で何か違うまち歩きに代わるものがあれば検討できるかなと、2点のお願いです。

部会長◇◇◇まず、まち歩きの時に別なカリキュラムというのは、ちょっと考えられないと思うのですね。それをしてしまうと、そのカリキュラムに参加した生徒とそうでない生徒に差が出てしまうので、それは望ましくないと思うのですけれども、当事者にもいろいろな状態の人たちがいるというのは、実は知的障害の方に限らず、車いすを利用される方にもいろいろな事情で利用されている方がいます。一例だけを見て全てを理解したことにはならないという注意は、全ての障害に通じてあると思うのですけれども、一緒に歩くということが望ましいのか、それとも親御さんの目線でお話を聞きながら歩くことが今回は望ましいのか、といったあたりは考える余地があると思うのですが、ご意見はありますか。

青柳委員◇◇私は小学校での体験の時に、視覚障害者とご一緒させていただいたのですが、児童たちが当事者にどのように聞いたらよいか分からない感じだったので、私の方で「この交差点を渡る場合の注意点は何か」などいろいろと聞いてみたのです。「今、バイクが来るのですけれども、どちらから来るか分かりますか？」と聞いてみたら、「こっちの方から来ています。」また、「こっちからは自転車が来ています」というふうにお答えいただいたのですね。それからは児童の方もだんだん要領を得て、いろいろと聞くようになったのです。我々がやれることとしてはそのようなことかなというふうに思います。

部会長◇◇◇知的障害をお持ちの方と共に学ぶことの難しさというのは、コミュニケーションが取りづらい

ということが根本にあるので、当事者が講師になるときに、講師自身が対応しづらいという状況があります。そのへんで、船戸さんにご意見をいただきたいと思うのですが。

船戸事務局長(社会福祉事業団)

知的障害の方をどう理解するかということは、何回もテーマになっておりまして、実は小学校での事業の時は、なかなかテーマとしては具体的になりませんでした。そこで育成会の方々、つまり親の立場から説明をしてもらい、言語を通して理解をするということをしたのですが、これもある特性の一面ではあるということで、全ての障害を理解できるわけではないのですが、こんなこともあるんだよということをお子供たちに理解してもらおうということで、一つの方法だと思えます。前回の大谷場中学校の時は、当事者の方を抜きに、育成会の方に入っていたいでまちを歩くという設定が最初にあったのですが、それですと育成会の方々も何のために来ているのかははっきりしなくなってしまうだろうと。その後、議論をさせていただきまして、私も事業団の施設をご利用いただいている方たちを、とりあえず連れてきたのです。特に大谷場中学校の場合は特別支援学級がないので、普段、知的障害のある方と直接お付き合いをしているわけでもありませんでしたので、ひとまずこういった方々がいるんだということ、その場に一緒にいてもらい気付いてもらうということをやってみようということで、かたちとしてやってみました。もちろん課題はたくさんあったのです。今お話しがあったように、果たして当事者がいるだけで障害の事を理解できるだろうかという課題も残りました。ただ、今までやったことがなかったその場に一緒に知的障害の当事者がいるということ、他の障害に関しては部会長からもお話しがあったように、それぞれいろいろな障害をお持ちで、実際にどのような支援が必要かということ言えば、さまざまな支援が必要な方たちなのですが、車いすに乗っている、あるいは白杖を使っている、聴覚障害の方は見てすぐには分かりづらいのですが、困難なことというのは中学生であれば、ある種のアドバイスですとか具体例を目の当たりにすると理解が出来るという意味では比較的入りやすいし、まちを歩きながらそのことをするという事は可能だと思います。知的障害のことを理解するとなると、それを取り出して何か本来はプログラムを考えなければというのは私たちも思っているところです。一方で、当事者というのはいろいろな方たちがいるので、事前に子どもたちがどの程度の理解を持っているかということ、あるいは実際に特別支援学級があるということであれば、小中を通してどの程度経験値があるのかということが分からないと、なかなかそこがアプローチしづらいのかなと。やりたいのは、どの障害もそうなのですが、障害を理解するというプログラムを考えたい、それをまち歩きの中でやっていきたいということなのです。ただ歩いているだけでは意味がないので、そこに知的障害の当事者の方をどう絡んでもらうかということを取り出して考えないと、なかなかここで議論するのは難しいかなということを思っています。今回は私も学校との打合せに行っておりませんので、事務局の方で岩槻中学校の生徒たちがどの程度、障害に対して理解をしているのか、あるいは普段関わりがあるのかないのか、このあたりをもう少し情報をいただいて、場合によっては事前学習の時間も作っていただくとか、あるいは昨年もやりましたが講義の時間をつくっていただき、そこで育成会の方に講演をいただくとか、そのような場面を通して実際まちに出た時、どういう関わりが出来るのかということ具体的には考えたいなど。場合によっては岩槻に私どもで管理する知的障害の施設がありますので、その何人かに協力をしてもらい当事者本人を連れてくるということが出来ればいいのかと思うのですけれども、そもそも学校に特別支援学級の生徒がいるとなると、このクラス分けですとか、そのあたりも先生の方

で意図があってやっているのか、事務局はまだそこまで具体的に打合せしていないということなので、そのあたりを詰めておいて、当日、成果が出るようなかたちに持っていかれたらなと思っています。一つは育成会の方たちにも絡んでいただいて、できれば何らかのかたちで昨年の当事者がその場に来ているというかたちをベースにして、そこからもう少し具体的なものを積み上げたいと思います。

部会長◇◇◇大切な課題ということをずっと意識しながら来ておりまして、ぜひ新しい試みを取り入れていきたいというふうに思っているところです。10月22日の「F」というグループで、知的障害について学ぶ取り組みがあって、そこには育成会の皆さんにもご協力いただくことになると思うので、そこで講師の方と生徒との関係ができますよね。今回、まち歩きがこの「F」のグループが5コースに分かれて歩くので、その分れて歩くときに10月22日に学んだことを意識的にまち歩きに活かせるような、生徒の意識付けというのを、ぜひ考えてみていただいて、歩くときに自分なりに知的に障害があるということをイメージしながらまちを歩いた時の危なさとか、分かりにくさみたいなことを、他のAからEまでの学友に語るくらいな、使命感を持って歩いてもらうと、子ども同士の学びというのはすごく影響力があると思うので、そういうことも少し10月22日の中で、目標として持っていただくといいのかなと思います。

部会長◇◇◇長根委員が、前回までのご議論の中で、駅の使い勝手についても少し学習してほしいというご要望があって、8月に学校を訪ねた時に、まち歩きで駅の中に立ち入るのは難しそうな感じがあるけれども、事前に東武にリクエストしておけば、子どもたちの事前の調べ学習の中で岩槻駅と東岩槻駅、ちょっとバリアフリーの現状も違うし、岩槻駅はやがて駅が改修されるということもあるので、学習対象としては面白いのですけれども、まち歩き当日は行けないまでも、事前に子どもたちにそういう視点を持って学んでおいてもらうということは出来るのかなという議論をしていました。そのことがどう進んでいるかは確認とれていないのですが、ご報告です。

長根委員◇◇ありがとうございます。

部会長◇◇◇それでは、時間も来ておりますので、細かな点でご質問等あれば事務局に問い合わせさせていただいて、この後は部会の開催予定はないと思いますので、書類等でのご連絡と、当日のご協力を、ぜひお願いして、本日の議事を終了します。

その他というのが議事の他にありますけれども、事務局からお願いいたします。

事務局◇◇◇特にございません。

部会長◇◇◇それでは、これで議事を終了させていただきます。事務局にお戻しします。

4 閉会

事務局◇◇◇どうもありがとうございました。本日、具体的にお示しできなかった部分が多々ありまして申し訳ございませんでした。日程も含めまして決定次第、速やかにお知らせできればと考えております。また、本日は様々なご意見をいただきましてありがとうございました。当日の事業の中で、いただいたご意見を活かしていけるように、しっかり準備を進めたいと思います。

以上を持ちまして、第15回さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以上